



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
9 月 号
2020. 9. 25 発行

『壺の中に天が有る』生活のススメ

校長 海 頭 巖

らんちゅうの鱗（うろこ）の輝きが一段と美しい季節。天の雲は一段と高くその様も衣替えをしたように感じます。コロナ禍での対応に気を配りながらの学校生活ですが、生徒たちのさわやかなあいさつが天まで届かんばかりです。心から有り難いことだと思えます。

さて、中国がまだ『漢』と言われていたころのお話です。

ある役人が、何気なく役所の窓から街の往来を眺めていると、城の壁の下に座って薬を売っている一人の老人がいました。ちょっと気になり、自分の仕事が終わってから、老人を訪ねてみました。老人は、自分の横に小さな壺を置いていました。役人に気づいた老人は、すかさず店をたたんで、壺の中にパッと入って見えなくなりました。役人は、「面白いものを見つけた。ひょっとしてあの老人は仙人ではないか。」と思い、次の日の夕方、またそこへ出かけて行きました。「昨日、壺の中に入って消えたところを見てしまった。ぜひ今日は自分を一緒に壺の中へ連れていってくれないか。」と、頼みました。老人は「そうか。」と言って、役人と一緒にその壺の中へ入って行ったのです。その壺の中は、美しい山や川など自然があふれ、また立派な建物も建ち並び、役人は十分楽しんで帰りました。

このお話は『壺の中に天有り』を意味しています。『壺の中に天有り』とは、『現実生活の中の別天地』とでも理解してもらっていいでしょう。私の尊敬する哲学者安岡正篤先生は「たとえ一日5分でもいいから、『壺中有天（壺の中に天有り）』の生活をせよ」と。このことは、人はどんな境遇の中にあっても、自分だけの内面世界をもつことの大切さを説いておられます。『壺中天（現実生活の中の別天地）』をもつことは、人生にとっても大切なことです。たとえ苦しいこと・辛いことがあっても、心に余裕をもって生きている時間、夢中に生きている時間がまさに『壺中に天有り』なのです。

さて、私には『らんちゅう（金魚の一種）飼育』という『壺中天』があります。『らんちゅう』の泳ぐ姿の可愛らしさ・美しさに魅せられ『らんちゅう美』を追求し、もうかれこれ25年になります。全く興味のない人には、その良さを理解していただくことはできません。でも『らんちゅう飼育』が私の現実生活の別天地なのです。

皆さんは何か『壺中天』を持っていますか。「受験勉強でそれどころでは…」「部活と勉強の両立で…」とか、保護者の皆さんは「子育てや仕事が忙しくて…」などと一蹴されてしまうかもしれませんね。『忙中閑あり』と言います。たとえ忙しくても、いや忙しいからこそ、『壺中天（現実生活の中の別天地）』を見つけてもらいたいのです。スポーツ、音楽、文学、芸術何でもいいのです。ほんのひとときでも、自分だけの存在感・Only-Oneの世界を味わえる時を過ごしたいものですね。

今、生徒や先生方にらんちゅうを差し上げています。なかなか好評です。数に限りはありますが、地域の方にもお裾分けができればと思っています。もしご入り用の方がいらっしゃいましたら、ご一報頂ければ幸いです。